



浜家連 ニュース1月号

第221号

2019年 1月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <http://hamakaren.jp/>

最近の精神障害者に関わるニュースから

理事長 宮川 玲子

明けましておめでとうございます。

今年も健康に気を付けながら、家族や当事者の生活が少しでも良くなる様に役員一同努力して参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。最近では新聞やテレビでも障害者の問題が取り上げられることが多くなりました。

まず「**障害者雇用の水増し問題**」です。驚いたことに、指導する役目の官庁や地方自治体が長い間、障害者手帳所持者でない人を障害者にカウントし、実際の障害者を法定雇用率より少なく雇っていたことです。一般企業なら罰則規定があるのに、公的機関は無いので放置されていたことは、

障害者を馬鹿にしていたとしか思われません。これを機会に障害者雇用を真剣に考えて欲しいと思います。雇用が進めば人手不足の解消にもなると思います。横浜市は水増しをしていないが、法定雇用率には達していないということです。3障害の雇用の割合が決まってないので雇う側はどうしても身体障害の人の方を多く雇うようですが、精神障害の人は能力のある人も沢山いますので、特性を活かす配慮をして頂ければ長続きできると思います。要はいかに雇う気があるかだと思います。

次に昨年前進したことです。

1. 「障害者の強制不妊手術」についてですが、国は謝罪し補償することになりました。

今後は誠実に実行してもらいたいと思います。

2. 精神障害者の交通運賃割引ですが、航空運賃割引が適用になりました。

長年の運動が一步進みました。しかしJRや私鉄運賃の方がまだです。他障害者には割引しているのに明らかに精神には差別していると思えません。割引になれば生活が苦しい障害者がもっと外に出るようになって利用が増え、JRの利益も増えるのではないかと思います。西鉄のように会社によっては割引するところも出てきましたので、JRも国がやるべきだと責任転嫁をしないで取り組んで欲しいと思います。

3. 高校の教科書に40年ぶりに精神疾患のことが載ることになりました。

3年後の2022年度から使われる高校の保健体育の教科書ということです。家族会はかねてから偏見を取り除くには教育が必要と言ってきました。精神疾患は思春期に発症することが多いので自分のこととして学ぶことが必要です。しかし以前教科書に載っていた記述は偏見に満ちた内容だったため削除されたということです。読んでみてビックリで、これでは偏見を持ってと言っているようなものでした。旧優生保護法と同じで少し前まで日本は本当に精神に関しては後進国だったのだなと思いました。今度は是非大丈夫なように、皆が関心を持って見守りたいと思います。家族会としても意見を出して行きたいと思います。また高校だけでなく中学の教科書にも載せてもらいたいと思っています。それにしても何故40年も放置していたのでしょうか。教育行政はもっと国民の声に耳を傾けて欲しいと思います。



平成 30 年度第 4 回 浜家連研修会報告

当事者の体験談を聞く ～病と共に生きるということ～

わかば会 藤井 るみえ

(日 時) 11月16日(金) 13:30～16:00

(場 所) 横浜ラポール 2 階 大会議室

(発言者) 心の病を抱える当事者 3 名

(コメンテーター) NPO 法人のびの会相談室 心理療法士 武田 綾 先生

(来場者数) 71 名



「心の病を持って生活する辛さ、どのように回復してきたか、本人にしか分からないことがあります。体験を語ることは回復してきた人の役目です。」武田先生の司会で 3 人の方の体験発表が始まりました。



摂食障害が治る過程で双極性障害を発症された方は、躁の時にしてしまった行動や鬱の時の辛さ、取り残され感などを話されました。「怒りの感情の下に寂しさがある。自分の気分を考えて、正しい判断が出来るように、病気と共存したいです。人生のリセットボタンがあったとしても、私は押さない。なぜなら、今まで自分を支えてくれた人たちとの出会いがあったから」と語られました。



次の方のお話は、発達障害による生活の困難さや、仕事が続かず傷つき、自殺未遂に追い込まれて行った辛い体験談でした。「間を置いてから行動する対処の仕方を身につけ、仕事が遅くても良いと思えるようになりました。丁寧に説明してもらえれば、働くことが出来ます。発達障害は自分らしさだと誇りを持って歩んで行きたいと思えます。大切な友人も出来ました。信頼できる人と思われる行動をして、自分の周囲から、発達障害に対する偏見をなくすことが夢です。」と語られました。



現在、断酒歴 8 年半の方は「断酒は自分対自分の対決で、独りではとても戦えません。断酒会に入り、今も仲間の話を聴きながら危機感を持ち続けています。」アルコール依存症になった原因と考えられる出来事や、次々と大切なものを失ってしまった経緯、その時々どう思っていたのか、今振り返ってどう思うかを語ってくれました。会場の誰もが胸の潰れる思いで、聞き入っていました。



トークディスカッションと質問の時間には、お互いを尊重し合う空気が流れ、共感と思いやりのある会話が続きました。父親はどうしていたら良いか?の質問に「何でもさらけ出して話せるコミュニティーを作って、心を軽くし、親自身が心の健康を保ってください。その上でお子さんと話をし、信頼関係を構築する。そのコミュニティーこそ浜家連、家族会です。」との発言者からの明快な答えがあり、会場内に拍手が起こりました。兄弟関係の修復に親の手助けは必要か?との質問に「見守っててください。大人ですから」という言葉も心に残りました。

「親がすべきことの一つは、疾病を理解することです。もう一つは、気持ちを分かろうと努め、本人のことを大事に思う気持ちを伝えることです。それがいつか伝わるように、第三者に入ってもらって、両者の思いの交通整理をしてもらうことです。」と武田先生がまとめられました。3 人の方の共通点は、心の整理整頓をして自己理解が進み、感情と行動がコントロール出来ていることだと思えます。また、苦労した分、支えてくれた人に対する感謝の気持ちが強く、人に優しくできる方たちです。信頼関係のある話し合いの中で、心理的に成長し、リカバリーを果たしていく姿を目の当たりにし、勇気を貰いました。

みんなねっと兵庫大会が開催されました（1日目）

2018年11月26日（月）～11月27日（火）に兵庫県の神戸ポートピアホテル及び神戸国際会議場にて、みんなねっと兵庫大会（第110回全国精神保健福祉家族大会in兵庫）が開催されました。この大会に浜家連から松本やす子さん（あおぞら会）、植木秀子さん（わかば会）、倉澤政江さん（もみじ会）、井汲悦子さん（さかえ会）が参加されました。その報告が届いています。

みんなねっと兵庫大会に出席して

あおぞら会 松本 やす子

2018年11月26日（月）に、神戸ポートピアホテル。27日（火）は隣接する神戸国際会議場で開催されました。会場の在る所はJR三宮駅からポートライナーで、ポートアイランド（港湾人工島地区）神戸空港行きに乗ります。この地区は、大型ホテル、青少年科学館、ワールド記念ホール、スポーツミュージアム、他大型の施設ばかりで、商店街が見当たらない所でした。

開会の言葉：①兵家連会長 米 靖弘氏 ②主催者挨拶 本條 義和氏から挨拶

来賓の祝辞：①兵庫県知事 伊戸 敏三氏 ②神戸市長 久元 喜造氏からの言葉

基調講演：「精神疾患を正しく理解するための教育の必要性について」「～何故日本では、精神疾患の教育が進まないのか、世界はどうか～」

講師：愛知県立大学看護学部精神看護学准教授 山田 浩雅氏

活動報告：「みんなねっとからの平成29年度活動報告」

公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会理事長 本條 義和氏

精神科医呉秀三が精神障害者の私宅監置の実態を政府に提出してから100年目となる。3月兵庫県、昨年12月大阪府で類似する事件があった。現代版私宅監置ともいえる相次ぐ事件は他人事では決してなく…、みんなねっと全国調査で実態を知らせていくことが求められている。29年度の計画の主旨「家族支援の視点」精神障害者家族を支え、孤立無援にさせない。29年度重点課題「交通運賃割引制度実現国会署名提出」「精神障害者障害年金の実態広報と要望」「医療費助成制度実現の支援」他8項目の活動報告がされました。交通運賃割引については、西日本鉄道が実施されている。実施の経緯を参考に運動をしていく。写真は「精神障がい者にも交通運賃割引制度の実現を！」とアピールのシュプレヒコールをした模様です。



航空運賃が割引になった。「社会啓発・広報事業の充実」高校の教科書に入ったが、義務教育の段階からカリキュラムに入れることが課題である。終わりに「共同意思決定・物を言うみんなねっと！意見をどんどん出してください」絶対実現するには、実現するまでやり続けることである！本條氏の強い言葉がありました。

<糸川 昌成 先生の講演>

わかば会 植木 秀子

テーマ「心の病とはなにかー物質と物質でないものー」

講師：東京都医学研究所 病院等連携研修センター センター長 糸川 昌成 先生

プログラムを開いたとたん見たこともない脳みその写真や、先生いわくアニメーションという神経細胞の絵柄がなんと10ページも「あーどうしよう、荷が重過ぎる、私の手におえないと頭を抱えてしまいました。」先生の立て板に水を流す

ような滑らかな話し声が頭の上を通り過ぎていくばかりです。考えてみれば科学者の先生が30年以上の年月を費やして研究されてきたことが、そんな簡単に理解できるわけありません。

心の病には脳（モノ）と出来事（コト）の要素があり、体験と因果関係がない「病気」と、体験と因果関係がある「病気」と、体験と因果関係がある「病気でないもの」が含まれている。薬は脳（モノ）に作用するが、出来事（コト）には効きません。

人が回復するには、モノ（脳）とコト（尊厳・自尊心など）の両方への手当が必要との概要を読み、先生はあの難しい遺伝子の話ではなく脳は心の一部（尊厳や自尊心は脳ではない）である事を話されました。

大学入学手続きの時に取り寄せた戸籍謄本で初めて母親が活着ている事を知りました。そして統合失調症を発症し長期入院を余儀なくされていた母親の生存を知りながら1度も会うこと



がなかった。ひっそり亡くなっていった母親への思いから、薬の研究に没頭していきました。

家族がハワイ旅行に出かけても、自分は楽しんだりしてはいけないのだと思われていたのではないのでしょうか。

そんな苦しみの中で、中村ユキさん・夏苺郁子先生・糸川昌成先生3人が雑誌の座談会で同じ立場の当事者家族と母親の事を涙と笑いを交えて7時間も話され、その日を境に、自傷行為のような研究生活は薄らいで行ったそうです。

初めて長い休暇を取りハワイ旅行を楽しまれたと、笑顔で講演を結ばれました。

先生はご自分のリカバリーを話してくださいました。

（次号 2 日目 井汲さん、倉澤さんへつづく）

浜家連の動き

・・・年号表記から西暦表記へ・・・

皇太子さまが5月1日に新天皇に即位されることに伴い、年号が平成から変わります。どんな年号になるのでしょうか。楽しみもありますが、一方では新年号への頭の切り替えや経過年数を数える時など迷いや混乱が予想されることから、浜家連ニュースを始め資料や書類については行政へ提出するものを除き、西暦で表記することが理事会で決まりました。

◆イベントのお知らせ◆

§ A ブロックフォーラム §

日 時：2019年 3月17日（日）

午後1時30分～午後3時30分（開場 午後1時）

会 場：横浜市緑公会堂

定 員：400名

講 演：こころ通う精神医療について

～訪問診療の現状～

講 師：地域ケアこころの診療所

院長・精神科医 武田 充弘 先生



【編集後記】

2019年が明けました。本年が障害者にとって、あるいは皆様にとって暮らしやすい世の中になるよう、一歩でも近づけるような年になればと思います。

本年も皆様の期待に少しでも応えられるよう頑張りますので、ご支援・叱咤激励をよろしくお願ひします。

（事務局 中居）